

精密ねじでアジア市場に立ち向かう企業 得意技術を武器にグローバルに変身

富士セイラ 株式会社

精密ねじ製造、ダイキャストの部品・金型製造、精密機械加工部品などを手がける富士セイラ株式会社。得意のハードディスク用精密ねじ技術を中心に、国内3ヶ所、海外4ヶ所の製造拠点を展開するグローバルメーカーでもある。

日本と異なる文化を持つ土地で、日本製造業が根付いていく秘密を探った。



ハードディスク用精密ネジは富士セイラの得意技術。

積極的な海外展開

1927年の創業以来、精密ねじの製造を中心に技術を蓄積してきた富士セイラは、国内に複数の製造拠点を持つに留まらず、最近10年間は積極的な海外展開を推進してきた。95年に以前から付き合いのあったプレス加工メーカーとの中国昆山市における合弁にはじまり、フィリピン、タイに合弁工場を、そして中国上海市に販売会社を続々と立ち上げ、現在、国内3ヶ所、海外4ヶ所の製造拠点を数えるグローバル企業へと変貌した。

海外展開のきっかけを高須雄一郎社長は「進出当時は状況も良くな、あまりお金をかけずに、将来に向けて海外の足がかりにしたいという気持ちからでした」と語る。

一方で、進出には現地の状況を理解した上で自社技術への自信があった。「当時、アジア製品は品質の信頼があまりなかった。さらに現地にねじや精密部品の会社が少ないことを知りニーズがあると確信したんです」と、高須社長。

この積極的な姿勢と冷静な判断が富士セイラの成長要因の一つであることは疑いない。

勝負のタイ進出

富士セイラがタイのパンカディ工業団地へ進出したのは2001年のことである。精密ねじを得意としていた富士セイラにとって、ハードディスク生産が盛んなタイ進出はある意味では自然なことだったのかもしれない。実際、同国への進出は富士セイラにとって最大の投資となった。

現在も取引先である株式会社シンセイからタイでの合弁の話があり計画を進めていたところ、タイミング良く某日系企業から処理工場の譲渡の話があり、その結果すぐスタートをすることになった。当初、表面処理からスタートし、最初は苦しかったが2年前から市場が大きくなり順調になったのを機に、ねじの製造を開始した。狙いは、やはりハードディスク用ねじであった。高品質と総合的技術が要求されるものなので技術者の育成を行い、ステップを踏みながら進めており現在は第1段階をクリアしたところである。

人材からさらなるグローバル化へ

海外進出した企業が必ず直面する問題、それは現地での人材の採用と技術教育である。特に製造業にとって海外での品質は、人材の育成に等しいといつて過言ではない。

富士セイラでは海外進出先の従業員の質を高めるため、現地採用した人材を日本で1年間、研修する制度を設けている。現在までの6年間で約200人を受け入れた。彼らは現在、富士セイラの現地工場で貴重な戦力として活躍している。

「将来的に海外拠点は日本人の会社という意識から脱却させたい」



高須社長は中国・タイを中心にグローバル戦略を進める。

こう語るのは高須俊行営業支援課長だ。現地では日系企業以外の仕事に絶対的に多い。既存の取引先に固執しては将来が不安定である。

「現地でビジネスとしての独立性が必要」と高須課長は語る。「理想は(国籍を問わず)誰が会社の舵をとっても構わない体制を築くこと」

アジアをフィールドにすることによう



高須俊行営業支援課長と研修生の方々。

て、変身を遂げた富士セイラは更なるグローバル化の未来図を描く。この未来を描く企業こそ、日本製造業新時代に必要な役者なのだろう。

編集部/井口晋一朗

Company Profile

富士セイラ 株式会社

所在地: 東京都大田区城南島 2-4-4
TEL: 03-3790-8116 FAX: 03-3790-1226

担当者: 営業部長 平野勲

事業内容: 各種ねじ及び特殊ねじ部品、精密機械加工部品、ダイキャスト及び金型等々小物金属製品全般

エミダス会社・工場詳細情報:

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?77904>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「富士セイラ」で検索できます。